

◆企画：第125回学術大会／委員会セミナー（教育問題検討委員会）
「補綴歯科専門医研修プログラムはどうあるべきか —欧米のプログラムに学ぶ—」

補綴歯科専門医研修プログラムはどうあるべきか？

—欧米のプログラムに学ぶ—

座長抄録-1

魚島勝美^a，木本克彦^b

What the program for prosthodontic specialist development should be?

-The programs in western countries as references-

Katsumi Uoshima, DDS, PhD^a and Katsuhiko Kimoto, DDS, PhD^b

題名および執筆者———

座長抄録-1「はじめに」

魚島勝美，木本克彦

「補綴歯科専門医研修プログラムはどうあるべきか—専門継続研修，専門医制度のあり方—」

東京医科歯科大学 鶴田 潤先生

「米国における歯科補綴専門医養成プログラムと認定制度」

日吉歯科診療所 熊谷直大先生

座長抄録-2「終わりに」

魚島勝美，木本克彦

はじめに

現在，わが国では新しい専門医制度のあり方について検討が進められており，医学系では来年度から新たな専門医制度がスタートする状況にある。平成25年度，厚生労働省の「専門医の在り方に関する検討会」の報告書によると，これまでの医学系専門医制度は，①学会専門医制度が乱立することによる専門医の質の低下が懸念されている。②患者さんに専門医が必ずしも理解されておらず，受診の指標になっていない。③専門医を取得した医師に特別なインセンティブがないなど多くの問題を抱えていることが指摘されており，歯学系においても該当する内容は多い。これを受けて歯学系においても平成27年4月より厚生労働省の「歯科医師の資質向上等に関する検討会・歯科医療の

専門性に関するワーキンググループ」が立ち上がり，安心・安全な歯科医療を提供するための専門性や専門医制度について議論が行われている。また，今年に入り，43の歯学系学会を会員とする日本歯科医学会連合においても歯科専門性に関する協議がスタートするなど歯科医療の専門性や専門医制度の議論が本格化している。専門医制度の基本理念は，専門医の質の担保とそれに対する患者からの信頼の上に成り立つものであり，この制度を下支えするのは，言うまでもなく専門医育成のための研修プログラムである。特にグローバル化が進む今の社会事情においては，国際的通用性の高い研修プログラムの策定が必要不可欠である。このようなことから本セミナーでは，海外の補綴歯科専門医制度に造詣の深い2名の講師を招聘し，わが国における補綴歯科専門医研修プログラムのあり方やその方向性について討議を行った。

^a 新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔健康科学講座生体歯科補綴学分野

^b 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野

^a Division of Bio-Prosthodontics, Department of Oral Health science, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

^b Division of Prosthodontics & Oral Rehabilitation, Department of Oral Function and Restoration, Graduate School of Dentistry Kanagawa Dental University

はじめに東京医科歯科大学の鶴田潤先生から、日本における歯学系専門医制度とその動向および欧州制度の切り口として、英国における歯科医師の管理母体である General Dental Council (GDC) における Specialist List (13 領域) の管理方法 (Specialty Curricula) が紹介された。さらに、GDC が昨年行った「Reviewing Regulation of the Specialties」の関連情報をもとに、英国における歯科医師専門医管理制度と今後のわが国における専門医制度のあり方、その

意義についても合わせて報告された。東京都開業の熊谷直太先生からは、米国歯科補綴専門医の立場から、米国における補綴専門医研修プログラムと認定制度について具体的に解説して頂き、米国における補綴専門医の社会的役割とそこに信頼を与える専門医制度のあり方について報告された。これらご講演の詳細については、後掲するそれぞれの講師の先生方の論文からお読み取りいただければ幸いである。